

平成21年度(第63回)

芭蕉祭

俳聖松尾芭蕉の業績を称え遺徳を偲ぶ「平成21年度(第63回)芭蕉祭」が、10月12日、上野公園を中心に行われました。

芭蕉翁銅像、文学碑への献花、献菓のあと、上野公園内の俳聖殿前で厳かに式典が行われました。式典は「芭蕉祭子ども合唱団」による「芭蕉さん」の斉唱で始まり、献詠俳句特選句の披露、懸額除幕、各受賞者への表彰などが行われました。今年の特選俳句は、全国各地および世界各国から一般の部に1万784句、テーマの部に1888句、児童生徒の部に2万7284句、連句に219巻、英語俳句の部に21カ国から452句の応募がありました。各部門の特選句と一般の部で入選された市内の方の句を紹介します。

一般の部 特選



有馬朗人 選

ひらひらと風を呑みたる蛇の衣
あげ潮に月天心や産湯満つ

ブラジル 青木駿浪
倉敷市 亀山賢治

稲畑汀子 選

伽石と語りをられん盆の月
風という翼を得たる蛍かな

島原市 平尾圭太
名張市 松岡芳人

茨木和生 選

水中は魚の泳ぎ 鵬
雲海に金剛杖を鳴らしけり

草津市 徳留邦子
豊中市 小畑晴子

宇多喜代子 選

樟若葉しろがねの水走りけり
新らしき水つぎつぎと那智の滝

大津市 篠原なぎ
和歌山県 矢田利治

岡崎光魚 選

夜は居間へ取り込んで干す紅の花
葉箸を焦がし茄子焼くチューホフ忌

伊勢市 坂口緑志
伊賀市 永井みよ

鍵和田柚子 選

金魚にもありし生々流転かな
百余年の校史を閉づる蛍の火

所沢市 新海あぐり
岡崎市 戸松つたへ

金子兜太 選

視力とは気力なりけり雲の峰
花鬼灯恋する脳の断層図

茨木市 吉田美子
室蘭市 武田玲子

倉田紘文 選

一山の神となりたる女滝かな
谷川の杭に繋がれ花筏

岡崎市 水野幸子
長野市 千曲山人

塩田藪柑子 選

虫干しに誇れるほどの物持たず
稲穂波離農に揺れる夫の黙

砺波市 島田青峨
伊賀市 滝川瑤星

西村和子 選

帰省子の軒おほらか青畳
風筋に置かれありけり籠枕

登別市 袖山 功
神戸市 前田比呂志

長谷川權 選

知り逢うて酒田へ二度の花の旅
焙烙の焼き色やさし草の餅

倉敷市 成澤 歩
岡山市 齋藤嘉子

星野椿 選

繚乱の花の中なる野点傘
柿すだれ奥に生活の窓明り

尾鷲市 安部千美
名張市 田中敦子

皆川盤水 選

先がけて玉解く伊賀の芭蕉かな
葉屋の百の抽出し半夏生

奈良市 渡辺政子
伊賀市 澤井とき子

宮田正和 選

朝顔や折目新し母子手帳
上り海女しばし白雨にたたずめり

伊賀市 築山八重子
志摩市 尾崎亥之生

森澄雄 選

山刀伐峠の静けさに聞く秋時雨
日盛りの故郷塚に蟬しぐれ

伊賀市 中川榮子
姫路市 中井照子

片山由美子 選

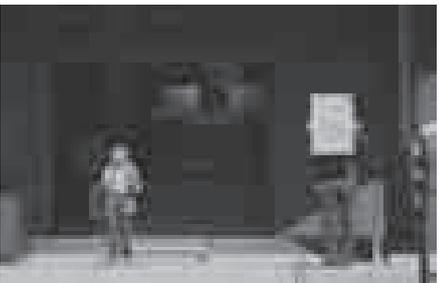
若草に旅の鞆を置きにけり
初旅の日付変更線を越す

伊賀市 佐々木経子
札幌市 高崎常子

英語俳句の部 特選

Misty maple shapes
even revealed by the dawn
remain mysteries
(暁の霧脱ぐ楓神のもの)
アメリカ ポール・ファウスト
(Paul Faust)
a soft blow
into kuina-flute
misty moon
(霧ごもる月ゆるやかに水鶏笛)
三重県 ヒロミ・ヨシダ
(Hiromi Yoshida)





児童・生徒の部 特選

【幼稚園・小学校1〜3年】

▼喜多富美・永井みよ・東構東子・福山良子・横田緑市・横田緑市 共選（五十音順）

エスカレーターいったりきたりなつやすみ

みどり保育園 もりなまかさき

みみふさぎおおきななびみてしまう

しろはと幼稚園 阿波 昂

かいすいよくくらげもいっしょになみにのる

しろはと幼稚園 関下 穂

ぼくのをにぎるいもうとなつまつり

上野西小1年 におかだりようか

みあげたらせみのぬけがらつくはつば

友生小1年 山元えいと

かわあそびみずのながれをかえてみる

島ヶ原小1年 宮田真和

せんたくのシャツのワツペンあかとんぼ

久米小2年 かね本千ひろ

夏休みパパののぼった木にのぼる

友生小2年 三浦 遥

はぐるさんトトロがでそうなこけのみち

鶴岡市朝陽第二小2年 松岡航大

帰省する兄まつ駅にせみの声

府中小3年 西田すずほ

かがり火とこしみのゆれるうかいぶね

中瀬小3年 久保ひかり

たきの前顔くらがりになつてゐる

友生小3年 久保ひかり

【小学校四年〜六年】

▼北村 保・北村みち・佐々木経子・松本ちい・霞葉悦子 共選（五十音順）

つばきの実朝の光であかくなる

長田小4年 百北穂稜

のらねこに名前を付ける夏の午後

府中小4年 角田和輝

大きいありおち葉をドアに入ります

友生小4年 丹後晴香

こしかけたベンチのぬくみ秋の海

高岡市伏木小5年 大谷内祐希

春風におされて一歩ふみ出した

田原市亀山小5年 田中大樹

プールのそこ光の線がうごいてる

柘植小5年 岡森大樹

りゆう金の三つのひれはシンデレラ

彦岐市瀬戸小6年 小島舞夜

今朝だけで咲いた朝顔ぼくの年

新居小6年 猪岡稔基

フェリーから湯けむり見える夏の旅

花之木小6年 加藤聖貴

【中学校・高等学校】

▼谷本昌子・西田誠・濱地和恵・藤井充子・山村勝子 共選（五十音順）

宿題の手を止め祈る終戦日

成和中1年 今井陽代利

万緑の森へと続くのほり道 直方市直方第三中1年 久野菜々
 海原へ出ていくヨット列をなす 緑ヶ丘中1年 清原竜樹
 汗ばんだユニフォームにある背番号 城東中2年 北 遥海
 初ものの秋刀魚売り出す鈴が鳴る 緑ヶ丘中2年 竹内瑠菜
 セミの声ピタリとやんだ日食だ 阿山中2年 城 満奈美
 国宝の寺に住みつく雀の子 直方市直方第三中3年 合戸 裕一
 花びらがころがってくる城の坂 丸山中3年 仲 真由子
 潮干狩り下ばかり見て時のたつ 千葉市新宿中3年 滝沢航希
 サッカーのハーフタイムや氷水 上野商業高3年 寺脇大貴
 命日に飛んだ螢は魂か 上野高3年 山口貴子

連句の部 特選

▼臼杵遊児・品川鈴子・西田青沙・宮下太郎 共選（五十音順）

※半歌仙『しをらしき名』の巻 石川県 芭蕉翁

しをらしき名や小松吹く萩蓐

うす雲かかる沖の有明

虫籠を繕ふ父の大きくて

十年続く町内会長

初めての携帯メールはかどらざ

何を探すか蟻のうろうろ

神官の浅黄涼しき地鎮祭

雨も気にせず細き肩抱く

鳥の声ペーミンントのあじなキス

息ととのへて登る坂道

ささやかな年金貯めて外国へ

竜馬の像は何を見つめる

畳なはる嶺際立てり冬の月

古墳の裾にちらり狐火

夢うつつどちら付かずに卒寿笑む

西方浄土説き給ふ僧

花ごろも衣桁にほのと香を散らす

春宵一刻酔ふて千金

平成21年5月25日

芭蕉翁 密田妖子
 神佐明子
 中村清子
 池田みち子
 密田妖子



一般の部 入選

▼有馬朗人 選

踊り子の幼き舞ひや鷗外忌 上野桑町 福沢義男

▼稲畑汀子 選

いかほどの仕事したかと思ふ汗 朝日ヶ丘町 山下文子

また一人風に招かれ緑蔭に 山畑 北村みち

若き女医ばらに囲まれ開院す 佐那具町 子日康子

實直に達者に生きて来し日焼 治田 西田扇女

贅沢な小言よじル冷えすぎと 上野愛宕町 岩田昌子

虚子の忌を修して伊賀に住んでをり 平田 中森皎月

万緑に沈みさうなる通過駅 佐那具町 西澤与志子

▼宇多 喜代子 選

竹の径どこか明るき壬生の鐘 上野幸坂町 片山妙子

▼岡崎光魚 選

のうぜんや葎簀編む家の煙出し 緑ヶ丘南町 松本ちい

吊し柿してより病んでをりにけり 上友生 橋本良

水音を地謡として蜩舞ふ 三田 西田 誠

紅藍花干す空舞ふ鷹に見盡され 沖 高橋久美

鋤き熟し水待つ峡田燕殖ゆ 四十九町 出口たみ

▼鍵和田袖子 選

龍の性覇者の性見せ瀧落ちる 西明寺 永井みよ

天空に一音のこし沙羅散れり 三田 西田 誠

川越えて隣在所へ野火の灰 森寺 喜多袖子

▼金子兜太 選

何事も続かぬ性や心太 上野愛宕町 服部和子

語られぬ心の廃墟終戦忌 上野西大手町 山村俊夫

▼倉田紘文 選

稜線に予期せぬ野火の走りけり 上野西大手町 山村勝子

▼塩田藪柑子 選

先行きの見えぬ政変梅雨深し 朝日ヶ丘町 中尾あや

秋冷の湖玲瓏と乙女像 阿山ハイツ 坂東一枝

人気無き自動車工場草茂る 東高倉 安本穂花

▼西村和子 選

大手門万朶の花をしたがへて 緑ヶ丘西町 豊田禮子

▼長谷川權 選

菊の名を花笠といふ長谷の道 野村 山下典子

いつよりの伊賀の川瀬の都鳥 木興町 森井杏雨

卯の花や婆だと言へば切る電話 朝屋 神尾早智子

▼星野椿 選

塔乗のタラップへ振る夏帽子 印代 森中幸枝

白鷺に植田の景色動きたる 西明寺 北田サカエ

道をしへ女人高野は照り曇り 服部町 中島邦子

ハイカーにゆづる一杓山清水 桐ヶ丘 内田育子

尼寺の小さき山門沙羅の花 上野丸之内 藤井充子

奥入瀬の溪流ぞいに濃あじさい 森寺 喜多佳子

▼皆川盤水 選

鉄工の往き来に潜る青瓢 柘植町 濱地和恵

花あけび伊賀に古りたる登り窯 緑ヶ丘本町 中森文子

水打つて宿場の灯影濃くしたる 三田 土井陽代

窯を出る信楽狸後の月 森寺 喜多袖子

老鶯のひねもす芭蕉遺髪塚 市部 加藤恭子

青芭蕉影濃く包む寿貞の碑 上野車坂町 森中香代子

▼宮田正和 選

ねぶの花咲いて翁の故山かな 木興町 森井杏雨

梅雨籠り縫ふより解くこと多く 千戸 冥合ふさ子

人去れば人来るベンチ濃紫陽花 上野車坂町 森岡了子

茜して雲の奥なる雲の峰 山出 菊山時子

岳観音おはす方より時鳥 柘植町 中西昭子

向日葵や蔵の画廊に切り絵展 柘植町 吉岡好子

花火果て暫く闇を見てゐたり 柘植町 平野ひろし

炎天の電車が潜る煉瓦橋 朝屋 袖尾早智子

青柿や女受け継ぐ火切堀 柘植町 橋本秀子

無住寺の小池を満たす山清水 中柘植 岡村史子

椋百羽翔ぶや農夫のひと手打ち 柘植町 濱地和恵

ほととぎす精進明けの小さき旅 猪田 西森 節

▼森澄雄 選

風鈴や翁句連らね伊賀町家 高畑 濱田昌子

日々通る蓑虫庵の椿実には 上野愛宕町 服部和子

見霽かす御斎峠に秋の雲 岩倉 西村八洲子

夏つばき落花のすがし蓑虫庵 市部 加藤恭子

萩咲き初む芭蕉の墓に詣でをり 上野西大手町 中坂順子

テーマの部 入選

▼片山由美子 選

菊根分しておくことも旅用意 木興町 森井章恵

空晴れて白靴の旅始まれり 柘植町 服部嘉紀子

神杉に風の来てある神の旅 柘植町 富山文夫

深吉野の旅に芽の輪をくぐりけり 柘植町 藤井千恵子

旅にあり鈴虫のこと家のこと 大野木 中川榮子

皂莢の実のからからと旅の果て 川西 岸 幸雄

峰雲のいつしか崩れ旅果つる 市部 加藤恭子

